

ありがとうのお返し

田島 愛梨

わたしはよく、お母さんに手紙を書きます。お母さんのことが大すきで「お母さんありがとう」と思うと、つつい書いてしまいます。

わたしは七人家族で、一番下の弟はまだ一さいです。ずっとお母さんにくっついてばかりで、お母さんは弟をだっこしたままがんばってくれています。だから、この夏はわたしもお母さんを助けたいと思いました。

いよいよ夏休みです。お手つだいをがんばると決めたわたしは、はり切っています。

まずはお皿あらいです。つめたい水とぶくぶくのあわであらうのは楽しくてすきです。だけど、一日に何ともあらうし、お皿のりょうが多くて大へんな仕事です。

つぎにせんとく物をたたみます。お母さんが夜中にせんとく物をほしたり、たたんだりしているところを見たことがあります。ものすごくたくさんのりょうを、ほしてたたんでかたづけます。やってみると本当に大へんだったけど、けっこう上手にたためました。

そして、わたしの一番すきなお手つだいのごはん作りです。まだ一人で作れるりょう理はないけれど、具ざいを切ったりいためたりするのが楽しいです。いろんなお肉の部分の名前をおぼえたり、りょう理のコツを教えてもらえてうれいす。だけど一番楽しいのは味見です。お母さんはかならず「食べてみる。」

と、わたしに聞いてくれます。「まってました」と心の中でよるこんで味見をします。やつぱりお母さんのごはんは世界一おいしいです。早く一人で作れるようになって、お母さんに味見をしてもらったり、食べさせてあげたいです。

こうしてでき上がったごはんをみんな食べている時が一番幸せです。食べおわってお皿をかたづける時、お母さんはまだ食べていないことに気づきました。弟にごはんを食べさせていて、自分のことは後回しでした。わたしは「もっともつとお手つだいがんばらない」と強く感じました。

ごはんを食べおわったら、先にお皿をあらいます。お母さんがせんとく物をほしている時は、弟に絵本を読んでもあげます。弟をねかしてつけている時は、せんとく物をたたみます。わたしはふたごだから、赤ちゃんの時どんなに大へんだっただろう。たくさんのありがどうをお返ししたいなと思いました。

わたしはお母さんに「生んでくれてありがとう。」と言いました。するとお母さんは「あいりがいてくれてよかった。いつも助けてくれてありがとう。」

と言ってくれました。「わたしね、お母さんを助けるために生まれてきたんだよ。」そう言うと、お母さんは少しなきそうになりながらわたしをぎゅつとしてくれました。